

東京電力ホールディングス(HD)の小売り事業会社である東京電力エナジーパートナー(EP)は、中国で省エネルギー提案を始め、2案件の実績を残した。広東省のアルミニウム製品メーカーの広東華昌鋁廠と並行して取り組んだのが、同省で綿布を生産する互太紡織印染だ。東電EPは2015年にコンサルティングを始め、Pは2015年にコンサルティングを始め、互太紡織印染は染色した綿布をファースト

モノづくり現場

エレクトロヒート技術最前線 14

東京電力エナジーパートナー〈下〉

リテリング、東レ、米GAPなどに供給する。工場の染色工程では約240台の染色機が稼働する。蒸気と冷

中国紡織工場に熱交換器



伝熱効率が高いスパイラル式熱交換器を納入

染色工程、エネ95%削減

却水を用い、加熱と冷却を何度も繰り返して染色する。色と生地に通ずるのが、大量

の温排水が発生する。これを冷却する

18年11月に運転を始めた。温排水からの熱回収が可能になり、染色工程の1次エネルギー使用量を95%削減できた。

互太紡織印染はこう減した。植田旬東電EP販売本部法人営業部産業ソリューション技術

手間が生じていた。互太紡織印染は既存手法の蒸気焚き吸収式冷凍機の増設を検討していたが、東電EPの提案で、クロセ(大阪府高石市)製のスパイラル式熱交換器の採用を決めた。

スパイラル式は2枚の伝熱板を渦巻き状に巻き付けて、二つの流路を形成している。多管式に比べ、伝熱効率が高く、汚れに強い。ステンレス製のため、

「企業イメージの向上に役立っている」と胸を張る。(戸村智幸)

【納入先概要】▽所在地 中国広東省広州市南沙区万頃沙鎮六涌同興村互太工業城
▽主要生産品目 染色した綿布▽年間CO₂排出量 非公表